

国内の視覚障害者等の読書状況とサピエ図書館について

社会福祉法人日本ライトハウス情報文化センター 館長
特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会 理事長
竹下 亘

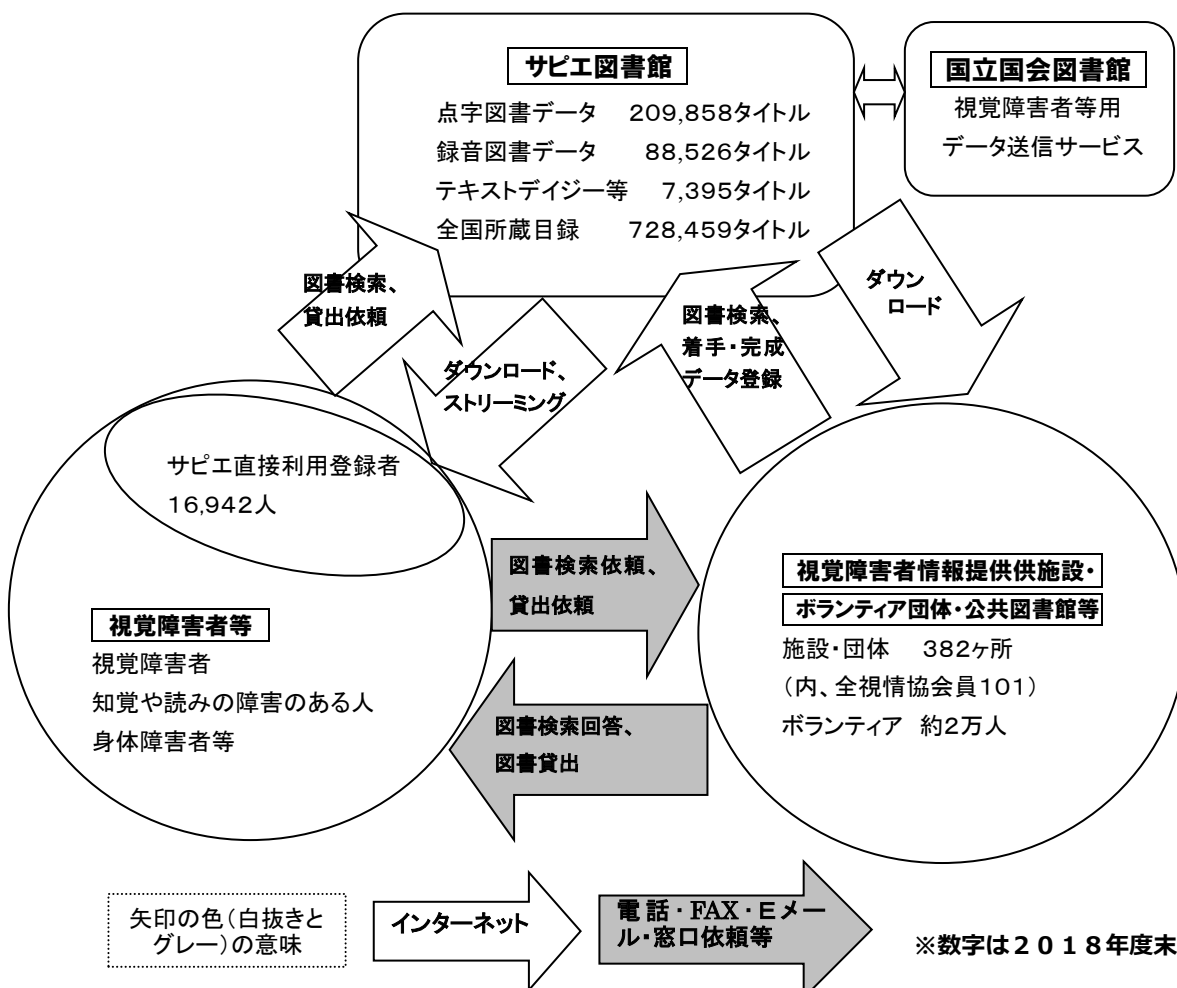
◆団体紹介

日本ライトハウス = 1922年、大阪で創業。ヘレン・ケラーを2度日本に招請。大阪府内で4施設(リハビリセンター、盲導犬訓練所、視覚障害者情報提供施設、点字出版所)を運営。情報文化センターでは点字、音声デジター、マルチメディアデジター、HyMe(ハイミー)などの媒体で年間1千タイトル近い図書データを製作・提供・貸出。全視情協事務局を預かり。

「**全視情協**」 = 全国の視覚障害者情報提供施設やボランティア団体、公共図書館等の協力により、サピエ図書館を中心に、視覚障害者等への情報製作・提供を推進。添付資料参照。

1. サピエ図書館の仕組み

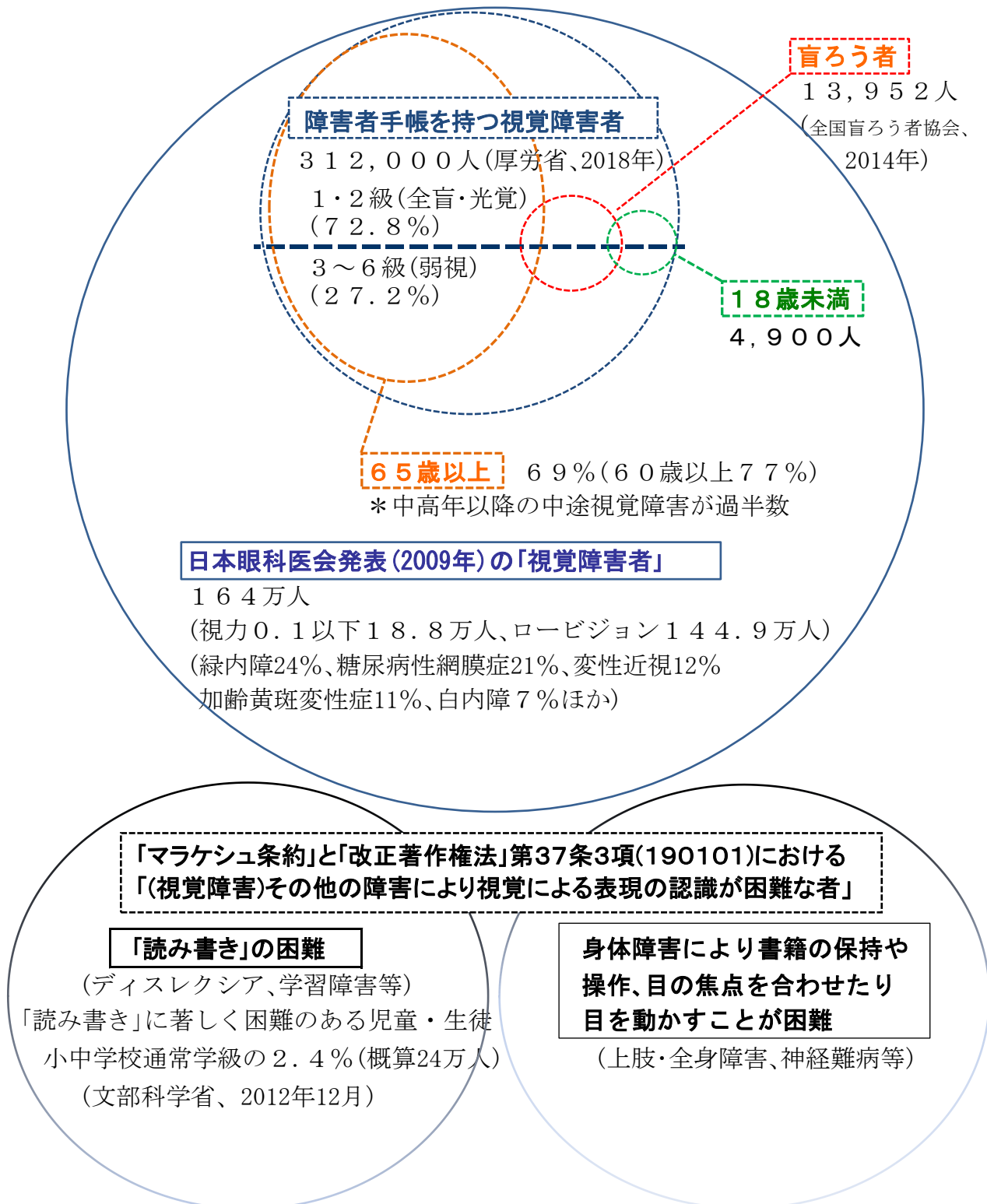
視覚障害者をはじめ読書に困難のある方々に、図書・雑誌などの情報を点字、音声、アクセシブルな電子データで提供するネットワークシステム。1988年創設の「てんやく広場」を母胎に発展し、2010年度に国の補正予算で誕生。URL <https://www.sapie.or.jp/>
(サピエ図書館の歴史は4頁を参照)



2. サピエ図書館の動画上映

動画『サピエ図書館ってこんなに便利！』（6分15秒）を以下で公開中。
全視情協のホームページ <http://www.naiiv.net/> →画面右横にリンク
YouTube で検索

3. サピエ図書館の利用対象者

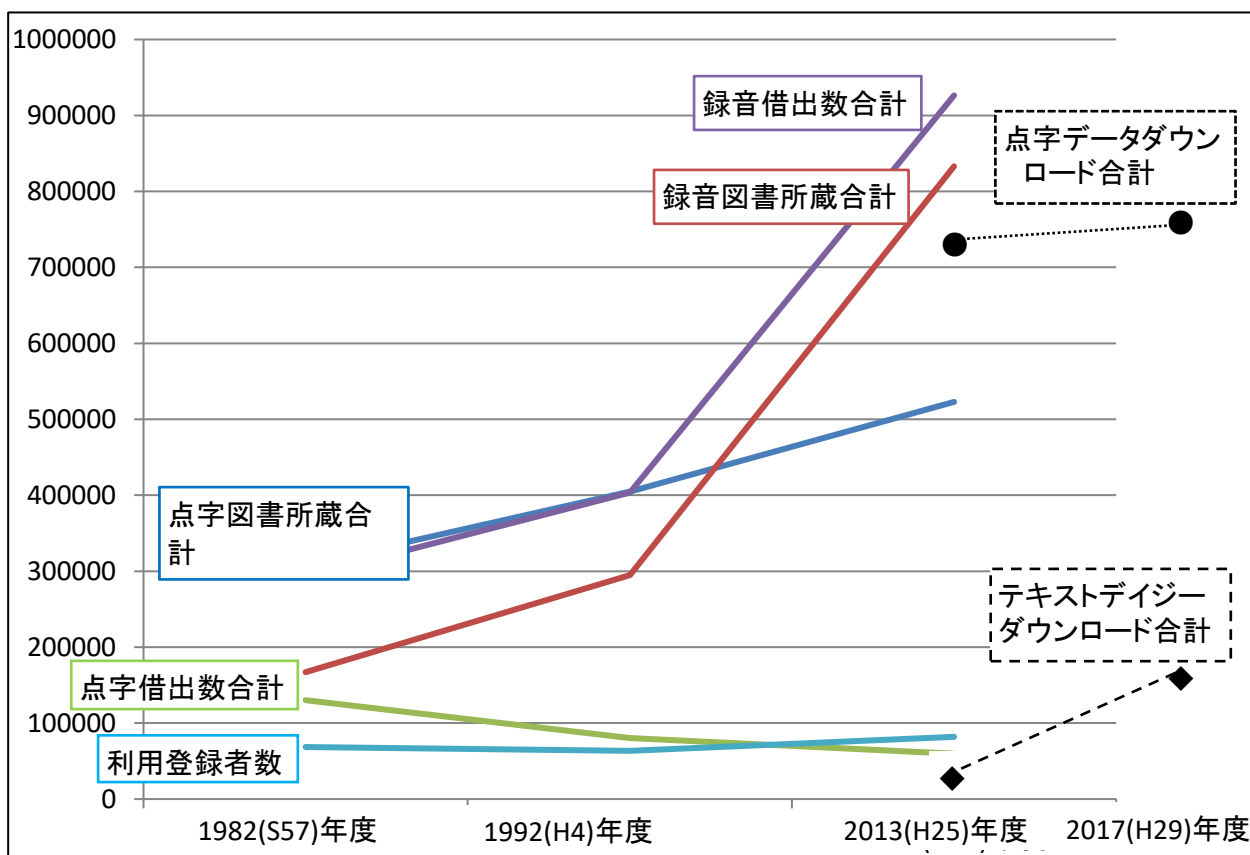


4. サピエ図書館の製作、登録、貸出、ダウンロード実績の推移

※単位の記載がない数字はタイトル数

音声デジタダウンロード合計

2000000



1. 点図利用状況	1982 (S57) 年度	1992 (H4) 年度	2013 (H25) 年度	2016 (H28) 年度
利用登録者数	68,000人	63,000人	79,000人	80,891
点字図書所蔵合計	308,000	404,000	526,842	502,856
点字借出数合計	130,000	80,000	56,122	60,392
録音図書所蔵合計	167,000	294,000	885,265	834,168
録音借出数合計	293,000	403,000	941,838	1,129,731

※上の表には未記入

2. サピエ利用状況		2013 (H25) 年度	2017 (H29) 年度
サピエ個人会員(利用者)数		12,475人	16,015人
点字データ	登録タイトル数	155,616	198,145
	ダウンロード合計	719,586	750,863
音声デジタ	登録タイトル数	49,558	80,846
	ダウンロード合計	2,053,108	2,989,368
テキストデジタ	登録タイトル数	533	5,541
	ダウンロード合計	29,158	203,744

(注)日本盲人社会福祉施設協議会情報サービス部会発行「日本の点字図書館」1、11、30の数字を元に試算。年度、項目により回答館数が異なるため、回答館数を調査対象の全館(84館)に揃えて推計試算。録音図書は1982年度と1992年度はカセットテープのみ、2013年度はデジタとカセットテープを含む。所蔵合計は、同一タイトルやサピエに未登録の図書が含まれているため、サピエの登録数よりも大幅に上回っている。

5. 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律

2019年6月21日成立・施行。今後の視覚障害者等の読書環境の発展・充実の基盤。

第一条（目的） 障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化（文字・活字文化振興法……）の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与する……。

第三条（基本理念） 一 視覚障害者等が利用しやすい電子書籍等【特定電子書籍】の普及が図られるとともに、視覚障害者等の需要を踏まえ、引き続き、視覚障害者等が利用しやすい書籍【特定書籍～点字、拡大書籍等】が提供されること。

二 【上記書籍の】量的拡充及び質の向上が図られること。

三 視覚障害者等の障害の種類及び程度に応じた配慮がなされること。

第九条（視覚障害者等による図書館の利用に係る体制の整備等）

第十条（インターネットを利用したサービスの提供体制の強化）

第十二条（視覚障害者等が利用しやすい電子書籍等の販売等の促進等） 国は、視覚障害者等が利用しやすい電子書籍等の販売等が促進されるよう、技術の進歩を適切に反映した規格等の普及の促進、著作権者と出版者との契約に関する情報提供その他の必要な施策を講ずるものとする。

2 国は、書籍を購入した視覚障害者等からの求めに応じて出版者が当該書籍に係る電磁的記録の提供を行うことその他の出版者からの視覚障害者等に対する書籍に係る電磁的記録の提供を促進するため、その環境の整備に関する関係者間における検討に対する支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

【参考】サピエ図書館～誕生から今日まで 30 年余の歩み

- 1988(昭 63)年 「IBMてんやく広場」発足(点訳データのパソコン通信ネットワーク。1991年までの4年間で加盟101施設・団体、点訳PC約1,500台に)
- 1994(平 6)年 国立国会図書館「点字図書・録音図書総合目録」試験稼働
個人利用者の点訳データの直接利用が可能に(個人利用者158人)
- 1998(平 10)年 「ないーぶネット」に名称変更。運営が全視情協に移管
- ～01(平 11)年 国の補正予算で全国へデイジー図書を製作・配付、再生機貸与
(テープ図書のデイジー化3,181tit、プレクストーク8千台)
- 2001(平 13)年 インターネット版「ないーぶネット」始動
- 2004(平 16)年 「びぶりおネット」(録音図書のインターネット配信)スタート
- 2007(平 19)年 著作権法改正で、録音図書データの自動公衆送信が認められる
- 2009(平 21)年 国の補正予算で新ネットワーク開発整備
- 2010(平 22)年 「サピエ図書館」誕生(ないーぶネットとびぶりおネットを統合)
- 2020(平 30)年 マラケシュ条約発効、改正著作権法施行、読書バリアフリー法施行

以上